

台風第20号の接近に伴う農作物等の管理対策

平成30年 8月21日
新潟県農林水産部

平成30年 8月21日10時35分に新潟地方気象台が発表した「北陸地方週間天気予報」によると、向こう一週間の最高気温・最低気温はともに平年より高い日が多く、23、24日には最高気温が35℃以上となる見込みです。

また、平成30年 8月21日 9時50分に気象庁が発表した「台風5日進路予報」によると、台風20号は23日から24日にかけて四国・中国地方を通り北上し、24日に本県に最接近する見込みです。

台風の進路によっては、フェーンとなることが想定されますので、今後の台風情報に十分注意し、農畜産物の適切な管理等に努めてください。

1 水 稲

[事前対策]

コシヒカリ等の中晩生品種は、着色粒等の障害の発生を防止するため、用水の供給状況を確認し、フェーンになる前に速やかに湛水する。

[事後対策]

台風通過後は自然落水を待ち、飽水管理に移行する

2 大 豆

[事前対策]

開花期から子実肥大期にかけて水分要求量が多くなるため、土壤水分が不足しないよう暗きよが閉栓されていることを確認する。

[事後対策]

土壤水分が不足した場合は、莢数の減少防止や子実肥大を促進するため、畦間かん水を行う。かん水は、ほ場全体に水が回ったら直ちに排水する。なお、フェーン前であっても土壤水分が不足している場合には実施する。

3 園芸関係全般

[事前対策]

- (1) ほ場や育苗ポット・トレイの乾燥を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水を行う。特に砂丘地では、飛砂防止も兼ねて風が強くなる前からスプリンクラー等で十分にかん水を行う。
- (2) 施設では、温度上昇を抑制するため遮光資材の内張や葉面散水・通路かん水の実施で葉焼けの発生を防止する。
- (3) 花き球根類の種球貯蔵にあたっては通風等に留意し、貯蔵庫内温度の低下に努める。

[事後対策]

- (1) 脱水症状が見られる作物は、速やかにかん水する。
- (2) 高温時に収穫した切り花は、花しみ障害等の発生を防止するため、速やかに涼しい場所で水あげを行い、蒸散の抑制と品温の低下を図る。

4 畜産

[事前対策]

- (1) 熱射病等の家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システム等の暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。
- (2) 給餌による急激な体温の上昇を防ぐため、多回数給与や朝・晩の涼しい時期に給与し、新鮮な水を常に十分飲水できるようにする。

[事後対策]

- (1) 熱射病等により家畜に急激な体調の変化が見られる場合は、速やかに獣医師の診療を受ける。
- (2) 家畜の死亡被害があった時は、速やかに化製場に搬入する等の確な処理を行う。

5 きのこと

散水・空調等で温度管理に努めるとともに、品質低下前の早期収穫に努め、収穫後は保冷库等で保管する。

6 漁業全般

[事前対策]

- (1) 出港前に確実に気象情報等を確認し、荒天が予想される時は出港を中止する。
- (2) 早めの情報入手を心掛け、以後の航海計画・出港予定を見直す。
- (3) 波や風の急変に注意するとともに、発達した積乱雲等に近づかないようにし、早めの帰港を心掛ける。
- (4) 漁具や飼育池等の管理に十分注意し、厳重に警戒する。

[事後対策]

- (1) 係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、安全を十分確保してから実施する。
- (2) 河川から流出した流木などが港内や海上を漂流している場合があるため、出入港、操業時は、周囲の安全を十分確認し、漂流物に接触しないよう注意しながら航行する。